

保健医療分野における AI 研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト 第 2 回合同シンポジウムの報告

日時 前半：2022 年 11 月 12 日 10 時～12 時、後半：同日 13 時 30 分～17 時

場所 東北大学医学部 6 号館 1 階講堂+オンラインによるハイブリッド

CLAP のコーディネーター教員としてシンポジウムに現地参加した平田が報告いたします。
北海道大学からは他に工藤教授、唐特任助教、大学院生の李さんが現地参加しました。

前半は、東北大学病院長 富永悌二先生によるご挨拶の後、PMDA の加藤健太郎先生（現地参加）、厚生労働省の岩元真先生（オンライン参加）、J-MIMO の工藤憲一先生、富士通ジャパンの堀井俊洋先生による講演が行われました。薬事承認、保険収載、次世代医療基盤法、企業が求める AI 研究開発人材といったテーマを、わかりやすく解説していただき、医療 AI に関わる者として大変多くのことを学ばせていただきました。演者全員のパネルディスカッションの後、名古屋大学副総長 大野欽司先生によるご挨拶がありました。

後半は、クローズドの会議として開催され、東北大学、北海道大学、岡山大学、名古屋大学の大学院生、総勢 31 人が研究の進捗状況を報告しました。結果まで出ている大学院生は 4 分 30 秒、コンセプト段階の大学院生は 2 分 30 秒の持ち時間が与えられ、この短い時間の中で要点をまとめて発表する良い機会になりました。

北海道大学からは 5 人の大学院生が発表しました。それぞれの大学院生から感想をいただきましたので、以下をご覧ください（発表順）。もう少しじっくり発表してじっくり質疑応答をしたかったという意見もありますが、全体として良い経験になったのではないのでしょうか。

来年以降もこのような発表会は定期的で開催しますので、ぜひこの場を利用して研究を加速させたりプレゼンのスキルを磨いたりしてほしいと願っています。

・中川純一先生

大学院では高校生や大学生のときのように一堂に会して授業をうけるということがないので、同じような研究をしている人が同じ大学院の中にも別の地にもこんなにいると知ることができて素直に嬉しかったです。様々なテーマ・手法があることも知ることができて良かったです。

・大淵佳祐先生

この発表会を通じて、同じ学年の先生方がすでに論文化をしていることを知り、とてもモチベーションアップにつながりました。個人的には臨床で国内留学中で、なかなか他の先生が

どのような研究をしているか知る機会が少なかった中、そういった発表を拝聴できるとても貴重な機会になりました。ただし、もう少し一人当たりの時間を確保するか、学会形式にして発表ブースをいくつか設けるなど工夫していただければ、もう少し質疑応答も盛り上がったのではないかなと思います。個人的にはもう少し建設的な意見とか、実際に放射線診断医にとって自分の研究がどのくらいの位置付けなのか、また率直な感想や今後の方向性について助言をいただければとは思いました。

・西岡典子先生

今回のシンポジウムは、AI を用いた医療系の研究をされている先生方の発表が聞ける、非常に貴重な機会だったと思います。

画像系以外である遺伝子解析などのお話は、分野が違うこともあり殆ど理解できませんでしたが、それでもその方向の研究をしている先生方がいらっしゃると知ることが出来ただけでも価値があったのではないかと思います。

また、個人的にはオンラインで参加できたので、非常に助かりました。

・押野智博先生

今回はこのような場で発表の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

自身の所属する大学はもちろんのこと、他大学でも同じような立場の人たちが大勢医療 AI の研究をされていることを知り、とても良い刺激になりました。

今回は一人あたりの時間が短いという特徴がありましたが、短い時間で次々と発表を聞いたのは、テンポが良くて飽きも来にくかったです。

このような機会が、今後も増えると嬉しいです。

・李穎彤先生

今回、このような発表に初めて参加する留学生として、緊張と嬉しさを覚えました。今回の発表を通じて、自分と他の発表者の違いがよくわかりました。自分の研究もより深く理解することができるようになりました。細かい部分について、座長の先生から素晴らしいアドバイスをいただきました。とても勉強になりました。

また、発表の後の Q&A セッションも良かったのですが、Q&A の時間が短かったのが残念です。Q&A の時間を延長して、もっと批判や提案を聞くことができれば、研究の改善に役立てられるので、ぜひお願いしたいです。

(文責 平田健司)